

## 物理学 I (力学) 11 回目: 質点系の運動

中野武雄  
2012年6月19日

### 9回目課題の解答(1)

Q: 野球の硬球(質量145 [g])を速度135 [km/h] で投げこむピッチングマシンがある。このマシンが硬球に与える力積を [N s] 単位で求めよ。この力積が 2.0 [s] の間に等しい力で与えられたものとする、加えられた力は何 [N] か。

A:  $I = \Delta p = mv = 145[\text{g}] \times 135[\text{km/h}]$

$$= 145[\text{g}] \times \frac{1[\text{kg}]}{1000[\text{g}]} \times 135[\text{km/h}] \times \frac{1000[\text{m}]}{1[\text{km}]} \times \frac{1[\text{h}]}{3600[\text{s}]}$$

$$= 5.437[\text{kg m/s}] \sim 5.44[\text{N s}]$$

$F$  が一定なら力積  $I = \int_0^T F dt = FT$  なので、

$$F = \frac{I}{T} = \frac{5.437[\text{N s}]}{2.0[\text{s}]} = 2.7[\text{N}] \quad (I = |I|, \text{他同様})$$

### 9回目課題の解答(2-1)

Q: 月の質量は、地球の質量の1.23%である。地球-月間の距離が  $3.8 \times 10^5$  km のとき、地球・月の2天体からなる質点系の重心の位置を求めよ。それは地球の半径 ( $6.4 \times 10^3$  km) の何%か。

A: 地球の質量を  $m_E$ 、月の質量を  $m_M$ 、両者の距離を  $d_{EM}$  とする。座標原点を地球の中心に置けば、重心までの距離  $d_G$  は

$$d_G = \frac{m_E \times 0 + m_M \times d_{EM}}{m_E + m_M} = \frac{m_M d_{EM}}{m_E + m_M}$$

月と地球の質量比  $\mu (= m_M / m_E) = 0.0123$  を代入して

$$d_G = \frac{\mu d_{EM}}{1 + \mu} = \frac{0.0123}{1.0123} \times 3.8 \times 10^5 [\text{km}] = 4.62 \times 10^3 [\text{km}]$$

### 9回目課題の解答(2-2)

地球の半径との比率は

$$\frac{4.62 \times 10^3 [\text{km}]}{6.4 \times 10^3 [\text{km}]} = 0.721 \sim 72\%$$

月と重心の距離は  $3.7538 \times 10^5$  [km]、比率は 5865%...となる。間違いではないが、この形式だと意味のある有効桁数がわかりにくいのが難。

### 9回目課題の解答(3-1)

Q: 質量・位置ベクトルがそれぞれ  $m_1, \vec{r}_1$  と  $m_2, \vec{r}_2$  である2物体の重心の位置ベクトルは

$\vec{R}_G = (m_1 \vec{r}_1 + m_2 \vec{r}_2) / (m_1 + m_2)$  である。これが a) 2物体を結ぶ直線上にあること b) それぞれの質量に反比例して内分した位置にあること、を示せ。

A.  $\vec{R}_G - \vec{r}_2 = \frac{m_1 \vec{r}_1 + m_2 \vec{r}_2}{m_1 + m_2} - \vec{r}_2 = \frac{m_1}{m_1 + m_2} (\vec{r}_1 - \vec{r}_2)$

よって  $\vec{r}_1 - \vec{r}_2$  と  $\vec{R}_G - \vec{r}_2$  はスカラー倍の関係なので、物体1,2と重心は一直線上にある。

### 9回目課題の解答(3-2)

同様に計算して

$$\vec{R}_G - \vec{r}_2 = \frac{m_1}{m_1 + m_2} (\vec{r}_1 - \vec{r}_2)$$

$$\vec{R}_G - \vec{r}_1 = \frac{m_2}{m_1 + m_2} (\vec{r}_2 - \vec{r}_1)$$

よって

$$|\vec{R}_G - \vec{r}_1| : |\vec{R}_G - \vec{r}_2| = m_2 : m_1 = \frac{1}{m_1} : \frac{1}{m_2}$$

より、重心は物体1と2を結ぶ直線を、それぞれの質量の逆比に内分する点にある。

## 9回目課題の解答(4)

Q: He 原子 (原子量4.0) が静止しているAr原子 (同40) と1次元の完全弾性衝突をした。衝突前にHe原子が持っていた運動エネルギーの何%がAr原子に移行したか求めよ。

$$m_{\text{He}}v_{\text{He}} = m_{\text{He}}v'_{\text{He}} + m_{\text{Ar}}v'_{\text{Ar}} \quad \text{および} \quad 1 = (-v'_{\text{He}} + v'_{\text{Ar}})/v_{\text{He}}$$

より  $v'_{\text{Ar}} = \frac{2m_{\text{He}}}{m_{\text{He}} + m_{\text{Ar}}} v_{\text{He}}$  よって運動エネルギーの比は

$$\begin{aligned} \frac{K'_{\text{Ar}}}{K_{\text{He}}} &= \frac{1}{2} m_{\text{Ar}} v'_{\text{Ar}}{}^2 / \frac{1}{2} m_{\text{He}} v_{\text{He}}{}^2 = \frac{m_{\text{Ar}}}{m_{\text{He}}} \left( \frac{2m_{\text{He}}}{m_{\text{He}} + m_{\text{Ar}}} \right)^2 \\ &= \frac{4m_{\text{He}}m_{\text{Ar}}}{(m_{\text{He}} + m_{\text{Ar}})^2} = \frac{4 \times 4.0 \times 40}{44^2} = 0.3305 \sim 33\% \end{aligned}$$

## 9回目課題の解答(5-1)

Q:  $v_1 \neq 0, v_2 \neq 0, e = 1$  の衝突について、衝突後の  $v'_1, v'_2$  を求めよ。またこのとき全運動エネルギーが保存することを示せ。

$$V_G = \frac{m_1v_1 + m_2v_2}{m_1 + m_2}, \quad v_R = v_1 - v_2 \quad \text{を用いると}$$

$$v_1 = V_G + \frac{m_2}{m_1 + m_2} v_R, \quad v_2 = V_G - \frac{m_1}{m_1 + m_2} v_R$$

衝突後は  $V'_G = V_G, v'_R = -v_R$  だから、

$$v'_1 = \frac{m_1v_1 + m_2v_2}{m_1 + m_2} + \frac{m_2}{m_1 + m_2} (-v_1 + v_2) = \frac{(m_1 - m_2)v_1 + 2m_2v_2}{m_1 + m_2}$$

## 9回目課題の解答(5-2)

$$v'_2 = \frac{m_1v_1 + m_2v_2}{m_1 + m_2} - \frac{m_1}{m_1 + m_2} (-v_1 + v_2) = \frac{2m_1v_1 - (m_1 - m_2)v_2}{m_1 + m_2}$$

これらを用いると、衝突後の全運動エネルギー  $K'$  は

$$\begin{aligned} K' &= \frac{1}{2} m_1 v_1'^2 + \frac{1}{2} m_2 v_2'^2 \\ &= \frac{1}{2} m_1 \left\{ \frac{(m_1 - m_2)^2 v_1^2 + 4m_2(m_1 - m_2)v_1v_2 + 4m_2^2 v_2^2}{(m_1 + m_2)^2} \right\} \\ &\quad + \frac{1}{2} m_2 \left\{ \frac{4m_1^2 v_1^2 - 4m_1(m_1 - m_2)v_1v_2 + (m_1 - m_2)^2 v_2^2}{(m_1 + m_2)^2} \right\} \\ &= \frac{1}{2(m_1 + m_2)^2} \left\{ m_1(m_1 + m_2)^2 v_1^2 + m_2(m_1 + m_2)^2 v_2^2 \right\} = K \end{aligned}$$

## 今日の内容

- 保存量の復習
- 質点系の運動
  - 全運動量・全角運動量の時間変化
- 力の合成・分解
  - 力の「作用線」
  - 偶力
- 重心を用いた質点系の運動の記述
  - 重心と角運動量
  - 重心と運動エネルギー

## 3つの保存量

- エネルギー～運動方程式の線積分
  - 受ける「仕事」が 0 なら変化しない
  - 保存力による仕事 → 全エネルギーの保存
- 運動量～運動方程式の時間積分
  - 質点系が受ける外力が 0 なら変化しない
- 角運動量～運動方程式と位置ベクトルの外積
  - 質点系が受ける、外力による「力のモーメント」が 0 なら変化しない

## 運動方程式 → エネルギー方程式

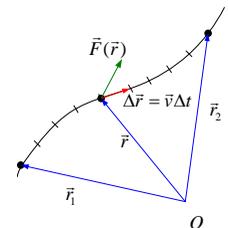
運動方程式

$$m \frac{d\vec{v}}{dt} = \vec{F}$$

の両辺を線積分

$$\int_{\vec{r}_1}^{\vec{r}_2} m \frac{d\vec{v}}{dt} \cdot d\vec{r} = \int_{\vec{r}_1}^{\vec{r}_2} \vec{F} \cdot d\vec{r}$$

$$\frac{1}{2} m v_2^2 - \frac{1}{2} m v_1^2 = W(\vec{r}_1, \vec{r}_2)$$



- 「運動エネルギーの増加は、その間に質点に働いた力のなす仕事に等しい」

## 力学的エネルギーの保存則

- 保存力のみが作用している場合は、

$$\frac{1}{2}mv_2^2 - \frac{1}{2}mv_1^2 = W_{\vec{r}_1 \rightarrow \vec{r}_2} = -U(\vec{r}_2) + U(\vec{r}_1)$$

$$\Rightarrow \frac{1}{2}mv_2^2 + U(\vec{r}_2) = \frac{1}{2}mv_1^2 + U(\vec{r}_1)$$

運動エネルギー+位置エネルギーが  
「保存」される

## 運動量

定義:  $\vec{p} = m\vec{v}$

$$\frac{d\vec{p}}{dt} = \frac{d}{dt}(m\vec{v}) = m \frac{d\vec{v}}{dt} = m\vec{a}$$

より、運動方程式は

$$\frac{d\vec{p}}{dt} = \vec{F}$$

この両辺を時間で積分すると

$$\int_{t_1}^{t_2} \frac{d\vec{p}}{dt} dt = \int_{t_1}^{t_2} \vec{F} dt \Rightarrow \Delta\vec{p} = \vec{I}$$

## 角運動量と運動方程式

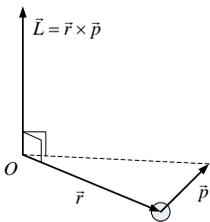
$\frac{d\vec{p}}{dt} = \vec{F}$  の両辺と  $\vec{r}$  の外積より

$$\vec{r} \times \frac{d\vec{p}}{dt} = \vec{r} \times \vec{F}$$

$$\Rightarrow \frac{d\vec{L}}{dt} = \frac{d}{dt}(\vec{r} \times \vec{p})$$

$$= \frac{d\vec{r}}{dt} \times \vec{p} + \vec{r} \times \frac{d\vec{p}}{dt}$$

$$= \vec{r} \times \frac{d\vec{p}}{dt} = \vec{r} \times \vec{F}$$



## 力のモーメント(トルク)

角運動量の時間変化を与える式

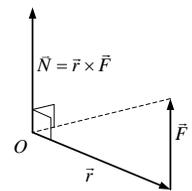
$$\frac{d\vec{L}}{dt} = \vec{r} \times \vec{F}$$

の右辺をトルクと定義する

$$\vec{N} \equiv \vec{r} \times \vec{F}$$

すると

$$\frac{d\vec{L}}{dt} = \vec{N} \quad \blacksquare \text{トルク方程式}$$



## 質点系の運動

## 全運動量と全角運動量

全運動量:

$$\vec{P} = m_1\vec{v}_1 + m_2\vec{v}_2 + \dots + m_N\vec{v}_N$$

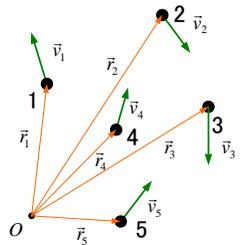
$$= \sum_{i=1}^N m_i\vec{v}_i \left( = \sum_{i=1}^N \vec{p}_i \right)$$

全角運動量:

$$\vec{L} = \vec{r}_1 \times m_1\vec{v}_1 + \dots + \vec{r}_N \times m_N\vec{v}_N$$

$$= \sum_{i=1}^N \vec{r}_i \times m_i\vec{v}_i \left( = \sum_{i=1}^N \vec{L}_i \right)$$

角運動量



## 復習:

### 内力では全運動量は不変



第三法則より  $\vec{F}_{12} = -\vec{F}_{21}$ 、よって

$$\vec{p}_1(t_2) - \vec{p}_1(t_1) = \int_{t_1}^{t_2} \vec{F}_{12} dt$$

$$\vec{p}_2(t_2) - \vec{p}_2(t_1) = \int_{t_1}^{t_2} \vec{F}_{21} dt$$

より、 $\vec{p}_1(t_2) - \vec{p}_1(t_1) = -\{\vec{p}_2(t_2) - \vec{p}_2(t_1)\}$

$$\Rightarrow \vec{p}_1(t_2) + \vec{p}_2(t_2) = \vec{p}_1(t_1) + \vec{p}_2(t_1)$$

### 質点系全運動量

各質点について

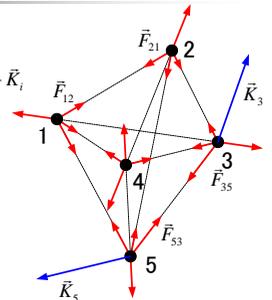
$$\frac{d\vec{p}_i}{dt} = \left( m \frac{d\vec{v}_i}{dt} \right) = (\text{内力の和}) + \vec{K}_i$$

全運動量

$$\vec{P} = \vec{p}_1 + \dots + \vec{p}_N$$

$$\frac{d\vec{P}}{dt} = \frac{d\vec{p}_1}{dt} + \dots + \frac{d\vec{p}_N}{dt} \\ = \vec{K}_1 + \dots + \vec{K}_N$$

外力: 外部から質点に働く力  
→ キャンセルできないので、  
全運動量が変化



## 復習:

### 内力では全角運動量は不変

第三法則より  $\vec{F}_{12} = -\vec{F}_{21}$ 、また

これらの力は互いを向く方向に

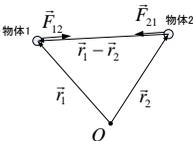
あるから

$$(\vec{r}_1 - \vec{r}_2) \parallel \vec{F}_{12} \Rightarrow (\vec{r}_1 - \vec{r}_2) \times \vec{F}_{12} = 0$$

$$\vec{r}_1 \times \vec{F}_{12} - \vec{r}_2 \times (-\vec{F}_{21}) = 0$$

$$\vec{N}_1 + \vec{N}_2 = \frac{d}{dt}(\vec{L}_1 + \vec{L}_2) = 0$$

- 運動量の場合と同様に、質点系における全角運動量は、内力によっては変化しない



### 質点系全角運動量

個々の質点について

$$\vec{L}_i = \vec{r}_i \times m_i \vec{v}_i$$

$$\frac{d\vec{L}_i}{dt} = \vec{N}_i = \vec{r}_i \times \vec{F}_i$$

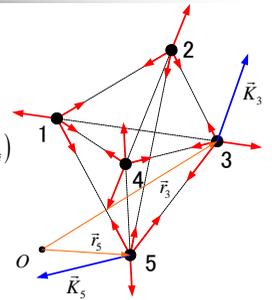
$$= \vec{r}_i \times (\text{内力の和} + \vec{K}_i)$$

全角運動量

$$\vec{L} = \vec{L}_1 + \dots + \vec{L}_N$$

$$\frac{d\vec{L}}{dt} = \frac{d\vec{L}_1}{dt} + \dots + \frac{d\vec{L}_N}{dt}$$

$$= \vec{r}_1 \times \vec{K}_1 + \dots + \vec{r}_N \times \vec{K}_N$$



## ここまでのまとめ

全運動量

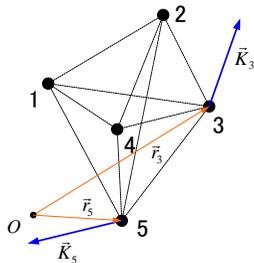
$$\vec{P} = \vec{p}_1 + \dots + \vec{p}_N$$

$$\frac{d\vec{P}}{dt} = \vec{K}_1 + \dots + \vec{K}_N$$

全角運動量

$$\vec{L} = \vec{L}_1 + \dots + \vec{L}_N$$

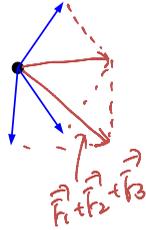
$$\frac{d\vec{L}}{dt} = \vec{r}_1 \times \vec{K}_1 + \dots + \vec{r}_N \times \vec{K}_N$$



## 力の合成

## これまでの「力の合成」

- 対象が質点だったので、常に一点で交わった。
- 力を「ベクトル」として加えればOK → 「平行四辺形」



## 質点系での力の合成

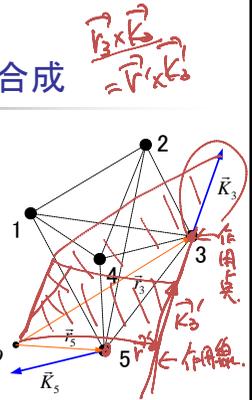
全運動量

$$\frac{d\vec{P}}{dt} = \vec{K}_1 + \dots + \vec{K}_N$$

全角運動量

$$\frac{d\vec{L}}{dt} = \vec{r}_1 \times \vec{K}_1 + \dots + \vec{r}_N \times \vec{K}_N$$

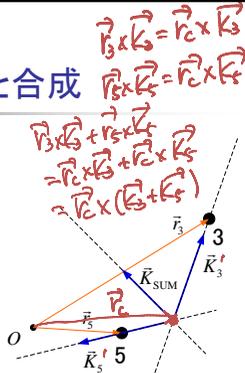
この2つの右辺を保った「合成法」  
はどんなものか？



## 力の「作用線」と合成

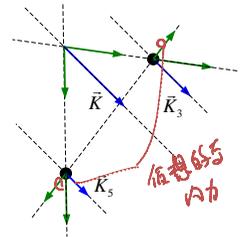
作用線：作用点を通り、力の向きに平行な線

- 作用線に沿って作用点を移動しても、トルクは変化しない。
- もちろん力の大きさも変化しない。
- 作用線が交わったところで平行四辺形ルールの合成を行えば良い → 新しい作用線



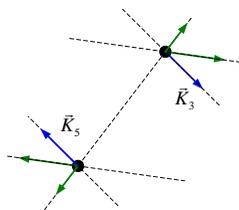
## 作用線が平行な場合

- 仮想的に、向きが反対で大きさが等しく、同じ作用線上にある2つの力を考える
- 合成して、新しい作用線の上で平行移動
- 作用線の交点で合成すればよい。



## 合成できない2力 → 偶力

- 大きさが等しく向きが正反対で、同じ作用線上にない2つの力
- さきほどの仮想的な力を加えても、やはり平行線のまま
- どの原点から見ても、トルクの和が等しくなる



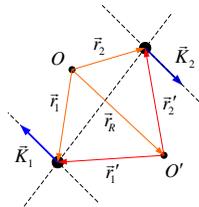
## 偶力とトルク

Oから見た全トルク

$$\begin{aligned} \vec{N} &= \vec{r}_1 \times \vec{K}_1 + \vec{r}_2 \times \vec{K}_2 \\ &= \vec{r}_1 \times \vec{K}_1 + \vec{r}_2 \times (-\vec{K}_1) \\ &= (\vec{r}_1 - \vec{r}_2) \times \vec{K}_1 \end{aligned}$$

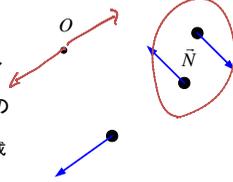
O'から見た全トルク

$$\vec{N}' = (\vec{r}'_1 - \vec{r}'_2) \times \vec{K}_1 = \vec{N}$$



## 任意の原点の下での力の合成

- 原点を通る作用線を持つ力と偶力とに合成できる。
- 偶力はどの点から見ても同じトルクを発生
- 偶力以外の力は、原点にその力を正負で起せば：
  - 負の力はもとの力と偶力を構成 → 原点回りのトルク
  - 正の力は原点に作用する力 → 並進運動の加速度となる



## 重心を用いた 質点系の運動の記述

## 復習：重心と全運動量

$$M \equiv m_1 + m_2 + \dots + m_N = \sum_{i=1}^N m_i$$

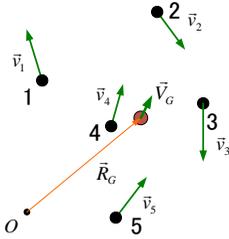
重心ベクトル

$$\vec{R}_G \equiv \sum_{i=1}^N \frac{m_i}{M} \vec{r}_i$$

$$\Rightarrow \vec{V}_G = \frac{d\vec{R}_G}{dt} = \sum_{i=1}^N \frac{m_i}{M} \vec{v}_i$$

これを用いると全運動量は

$$\vec{P} = \sum_{i=1}^N m_i \vec{v}_i = M \vec{V}_G$$



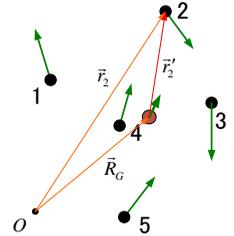
## 重心からの相対座標

$\vec{r}_i = \vec{R}_G + \vec{r}'_i$  のように  $\vec{r}'_i$  を定義。

$$\begin{aligned} m_1 \vec{r}'_1 + \dots + m_N \vec{r}'_N &= m_1 (\vec{r}_1 - \vec{R}_G) + \dots + m_N (\vec{r}_N - \vec{R}_G) \\ &= m_1 \vec{r}_1 + \dots + m_N \vec{r}_N - M \vec{R}_G \\ &= 0 \end{aligned}$$

同様に

$$m_1 \vec{v}'_1 + \dots + m_N \vec{v}'_N = 0$$



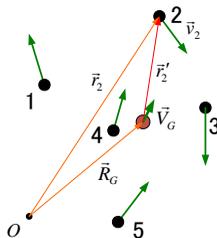
## 重心と全角運動量

$$\vec{L} = \vec{L}_1 + \dots + \vec{L}_N$$

$$= \sum_{i=1}^N \vec{L}_i$$

$$= \sum_{i=1}^N \vec{r}_i \times m_i \frac{d\vec{r}_i}{dt}$$

$$= \sum_{i=1}^N (\vec{r}'_i + \vec{R}_G) \times m_i \frac{d(\vec{r}'_i + \vec{R}_G)}{dt}$$



## 重心と全角運動量 (続)

$$\begin{aligned} \vec{L} &= \sum_{i=1}^N (\vec{r}'_i + \vec{R}_G) \times m_i \frac{d(\vec{r}'_i + \vec{R}_G)}{dt} \\ &= \sum_{i=1}^N \vec{r}'_i \times m_i \frac{d\vec{r}'_i}{dt} + \sum_{i=1}^N \vec{r}'_i \times m_i \frac{d\vec{R}_G}{dt} + \sum_{i=1}^N \vec{R}_G \times m_i \frac{d\vec{r}'_i}{dt} + \sum_{i=1}^N \vec{R}_G \times m_i \frac{d\vec{R}_G}{dt} \\ &= \sum_{i=1}^N \vec{r}'_i \times m_i \frac{d\vec{r}'_i}{dt} + \underbrace{\left( \sum_{i=1}^N m_i \vec{r}'_i \right)}_0 \times \frac{d\vec{R}_G}{dt} + \vec{R}_G \times \left( \sum_{i=1}^N m_i \frac{d\vec{r}'_i}{dt} \right) + \vec{R}_G \times \left( \sum_{i=1}^N m_i \right) \frac{d\vec{R}_G}{dt} \\ &= \sum_{i=1}^N \vec{r}'_i \times m_i \frac{d\vec{r}'_i}{dt} + \vec{R}_G \times M \frac{d\vec{R}_G}{dt} = \vec{L}' + \vec{L}_G \end{aligned}$$

ただし  $\vec{L}' \equiv \sum_{i=1}^N \vec{r}'_i \times m_i \frac{d\vec{r}'_i}{dt}$  および  $\vec{L}_G \equiv \vec{R}_G \times M \frac{d\vec{R}_G}{dt}$

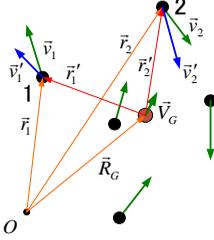
*Handwritten notes:*  $\vec{L}'$  は相対角運動量,  $\vec{L}_G$  は原点 O からの角運動量

## L', L\_G って?

$$\vec{L} = \vec{L}' + \vec{L}_G$$

$$\begin{aligned} \vec{L}' &\equiv \sum_{i=1}^N \vec{r}'_i \times m_i \frac{d\vec{r}'_i}{dt} \\ &= \sum_{i=1}^N \vec{r}'_i \times m_i \vec{v}'_i = \sum_{i=1}^N \vec{r}'_i \times m_i (\vec{v}_i - \vec{V}_G) \end{aligned}$$

$$\vec{L}_G \equiv \vec{R}_G \times M \frac{d\vec{R}_G}{dt} = \vec{R}_G \times \vec{P}_G$$



## 「重心回りの角運動量」

$$\vec{L} = \vec{L}' + \vec{L}_G \Rightarrow \vec{L}' = \vec{L} - \vec{L}_G \text{ より } \frac{d\vec{L}'}{dt} = \frac{d\vec{L}}{dt} - \frac{d\vec{L}_G}{dt}$$

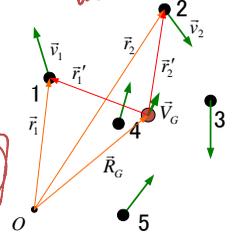
ここで

$$\frac{d\vec{L}}{dt} = \sum_{i=1}^N \vec{r}_i \times \vec{K}_i$$

$$\frac{d\vec{L}_G}{dt} = \frac{d}{dt} \left( \vec{R}_G \times M \frac{d\vec{R}_G}{dt} \right)$$

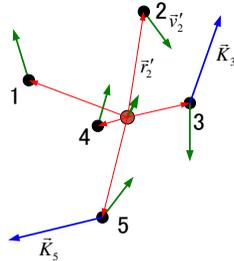
$$= \frac{d\vec{R}_G}{dt} \times M \frac{d\vec{R}_G}{dt} + \vec{R}_G \times M \frac{d^2\vec{R}_G}{dt^2}$$

$$= \vec{R}_G \times M \frac{d^2\vec{R}_G}{dt^2} = \vec{R}_G \times \sum_{i=1}^N \vec{K}_i$$



## 「重心回りの角運動量」(続)

$$\begin{aligned} \frac{d\vec{L}'}{dt} &= \frac{d\vec{L}}{dt} - \frac{d\vec{L}_G}{dt} \\ &= \sum_{i=1}^N \vec{r}_i \times \vec{K}_i - \vec{R}_G \times \sum_{i=1}^N \vec{K}_i \\ &= \sum_{i=1}^N (\vec{r}_i - \vec{R}_G) \times \vec{K}_i \\ &= \sum_{i=1}^N \vec{r}'_i \times \vec{K}_i \end{aligned}$$



## 結局...

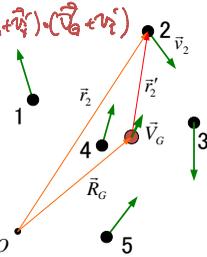
$$\frac{d\vec{L}'}{dt} = \sum_{i=1}^N \vec{r}'_i \times \vec{K}_i$$

- 「質点系の、重心に関する全角運動量の時間変化は、重心に関する外力のトルクの総和に等しい」 (「重心に関する」=「重心を原点とした」)
- 重心の運動状態によらない(重心が加速度運動していても成立する)。

## 質点系の運動エネルギー

$$\begin{aligned} K &= \sum_{i=1}^N \frac{1}{2} m_i v_i^2 = \sum_{i=1}^N \frac{1}{2} m_i |\vec{V}_G + \vec{v}'_i|^2 \\ &= \sum_{i=1}^N \frac{1}{2} m_i V_G^2 + \sum_{i=1}^N \frac{1}{2} m_i 2\vec{V}_G \cdot \vec{v}'_i + \sum_{i=1}^N \frac{1}{2} m_i v_i'^2 \\ &= \frac{1}{2} \left( \sum_{i=1}^N m_i \right) V_G^2 + \vec{V}_G \cdot \sum_{i=1}^N m_i \vec{v}'_i + \sum_{i=1}^N \frac{1}{2} m_i v_i'^2 \\ &= \frac{1}{2} M V_G^2 + \sum_{i=1}^N \frac{1}{2} m_i v_i'^2 = \frac{1}{2} M V_G^2 + K' \end{aligned}$$

ただし  $K' \equiv \sum_{i=1}^N \frac{1}{2} m_i v_i'^2$



## 「重心回りの...」のまとめ

$$\vec{P} = \vec{P}_G,$$

$$\vec{P}' = \sum_{i=1}^N m_i \vec{v}'_i = 0 \quad \text{■ 「重心回りの全運動量」は0}$$

$$\vec{L} = \vec{R}_G \times \vec{P}_G + \vec{L}',$$

$$\vec{L}' = \sum_{i=1}^N \vec{r}'_i \times m_i \vec{v}'_i \quad \text{■ 「重心回りの全角運動量」は全角運動量から「重心の角運動量」を引いたもの}$$

$$\frac{d\vec{L}'}{dt} = \sum_{i=1}^N \vec{r}'_i \times \vec{K}_i$$

$$\text{■ 重心回りの全角運動量の時間変化は「重心周りの全トルク」}$$

$$K = \frac{1}{2} M V_G^2 + K',$$

$$K' = \sum_{i=1}^N \frac{1}{2} m_i v_i'^2 \quad \text{■ 「重心回りの運動エネルギー」は、全運動エネルギーから「重心の運動エネルギー」を引いたもの}$$

## 課題2

棒に作用している以下の3力が、合力も合成トルクもいずれも0であることを作図で示せ。

